

例は無御座候得共、此者共被下候様奉願候。以上。

辰十二月廿八日

改作奉行

宛所 同斷

宛所 同前

一〇〇 引免・新納所等書出之事

覺

一、六千七百七十四斗二升五合

能美郡之内十九ヶ村

羽咋郡之内三十四ヶ村

鹿嶋郡之内四ヶ村

鳳至郡之内五ヶ村

珠洲郡之内二ヶ村

礪波郡之内四ヶ村

射水郡之内十七ヶ村

新川郡之内五十二ヶ村

内

三千九百八十三石五斗四升五合

御藏入

二千八百八十六石八斗八升

給人知

右御郡々之内田地、山崩に而水込砂入罷成候村々、當年よ

り年季引免に申付候物成如此御座候。以上。

月日

宛所 同前

覺

一、五十六石三斗三升七合

手上高當年より納所仕分

物成十四石六斗八升三合

一、三石五斗

新開當年より納所仕分

物成九升七合

右當年より納所申付、出來高物成如此御座候。以上。

月日

宛所 同前

覺

御領國中御藏入・給人知共、當年貢五ヶ山金納所并銀納之分皆濟仕候。且又定作食米取立奉行、所々に罷越、藏納見届申候。以上。

月日

宛所 同前

覺

一、四千七百七十三石一斗八升二合

前々御郡中百姓共年季御貸米之内如此取立申

候。但銀納共。

右當年返上米如此御座候。以上。

月日

宛所 同前

私に記す。

享保十五年分返上高

一萬四千二百二十四石二升

同十六年分能美・石川河北は不取立

九千七百七十六石七斗五升

同十七年分

一萬四千三百四十五斗

右之分也。尤前廉改作所物書所等之役人申談置、取しらべ書出候也。

一〇一 親不知波除人夫之儀

懸合留

境奉行市振の遺候紙面寫 但寛延元年也。

口上

先年より加賀守殿江戸參勤往來之節、越後山下親不知等爲波除、領分より人足指遣、風波見村に二三日も致止宿來候所、去春以來右人足市振に令止宿候様に、其驛之面々申聞指留候に付、無是非市振に致止宿候由に候得共、市振より不親知迄は道程一里餘茂有之候故、波除之用事不手廻に而、被罷通候節用事も辨兼候間、重而よりは如前々、人足共風波見村に指遣致止宿候様に申渡可然候。併去春以來之例を以、若市振に前廉より宿用意等拵候へば無益に相成候間、左様無之様に致度旨、市振役人中に兼而申談置可然由、金澤役人共より申越候間、此旨各に被有承知、其驛之面々にも右之趣御示談頼入存候。猶更使に口上に茂申合遺候。

十二月

越中境關所奉行

和田權五郎

越後市振御役人衆中

御口上書之趣拜見仕候所、先年より加賀守様江戸御往來之